

# 守れ日本一の清流

紀北町で銚子川サミット

## 取り組み発表

【北牟婁郡】紀北町海山区の便ノ山区（玉津正人区長）が呼び掛け、半年に一度開いている「銚子川サミット」の第八回が二十二日夜、同区相賀の海山公民館研修室で開かれた。流域住民や漁協、NPO法人、国土交通省、県、紀北町など十四団体二十六人が参加し、「日本一の清流を守る」それぞれの取り組みを

発表し、意見を交わした。

銚子川は海山区内の中心部を貫流するが、県の水質調査でも透明度一位を獲得するなど清流としての評価が高い。熊野古道が横断し、観光資源としての重要性が高まっている。

会議では、七月二日に同川流域で開かれる「きほく七夕物語」の企画内容が、同実行委員会から発表され

たのをはじめ、NPO法人「ふるさと企画舎」から「くき漬け」づくりなど

「銚子川ブランド」への取り組みが報告された。紀北町からは山岡哲副町長や三

課長らが出席し、「銚子川魅力アップ事業」の方向性が示された。

また、同川中流域で近畿自動車道紀勢線が横断するが、国交省東紀州事務所長は「景観に配慮した工法」を説明し、完成後の道路照明についても、沿線のホタルの発生や稲作に支障が出ないように配慮することを明らかにした。

銚子川ブランドづくり取り組みを発表するNPO法人担当者（左）紀北町海山公民館研修室で

